

自由工房

社会教育施設における生涯学習への取り組みの必要性の増大に応じて、自主制作の場として実技室を開放する「自由工房」を、週末の金曜から日曜日に通年開室し、広く県民に創作活動の場を提供した。祝日を加え週3日から4日の開室であった。

■自由工房（通年開室）

参加者の自主制作を基本とするため中学生以上の個人を対象とし、インストラクター来室日には実技上の相談や助言を行った。参加者の活動内容は、実技室が持つ大型の版画プレス機を使った各種の版画、デッサン、水彩画、油彩画、館所蔵の美術ビデオの鑑賞など。期間は、他の講座で実技室を使用する日を除く毎週末の金、土、日曜日と祝日を基本とする。

開室日数=125日

10:15～16:15

講師=内山久子（美術家）

利用者数=1,118名

■ロダン館デッサン会

ロダン彫刻の素描を通してより鑑賞を深めると同時に、新たな創作の場となることを期して「ロダン館デッサン会」を実施した。ロダン彫刻を素描する機会の提供に主眼を置き、参加者同士で行う感想会を、毎回終了時に設けた。技術的指導はなし。

期間=毎月第4金・土曜日（本年度計24回実施）

参加者数=564名

■ロダン館デッサン会スペシャル

「ロダン館デッサン会」の特別版として講座形式のイベントを実施した。参加者は、画用紙に鉛筆でロダンの彫刻をクロッキーし、その上からアクリル絵の具1色で鉛筆の線が消えない程度に画面全体を塗りつぶして乾燥させた。その後、アクリル絵の具の色より明るいところは白い鉛筆で、暗いところはカーボンペンシルで描写すると、画面にロダン彫刻の形が浮き上がって見えてくるという、グリザイユの技法を応用した描き方を体験してもらったのだが、白い紙に描いている時は、とかくブロンズの反射光に惑わされていた参加者が、よりロダン作品の量感を捉えて表現できたと思われる。中には、後日のデッサン会で何回か続けて同じ描き方を試す方もおり、ロダン作品をより深く観察する良いきっかけとなった。

期 日=平成17年7月10日

講 師=当館普及スタッフ

参加者数=19名

■版画入門

実技室で行われている自由工房の中に、版画入門の日を設けた。基本的な技法、材料の扱い方をインストラクターがわかりやすく説明しながら実演した。本年は、展覧会の会場で作品を見ながら、表現の説明をするなど、鑑賞を重視した内容も積極的に盛り込むと共に、初めて木版画の入門講座も実施した。これにより、凹・凸・孔・平の基本4版種をすべて紹介できたことになる。後日、自由工房で講座の続きや新作の制作に取り組む方も増えており、着実に広がりを見せている企画である。

リトグラフ=11月19日・20日

シルクスクリーン=5月14日

銅 版 画=4月9日、9月17日

木 版 画=1月14日・15日

10:15～16:15

講 師=内山久子（美術家）、当館スタッフ

参加者数(通算)=90名



<シルクスクリーン入門>展示室での作品鑑賞の様子